
自然体な不思議

星野 雫(Elwing)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自然体な不思議

【Nコード】

N8428K

【作者名】

星野 雫 (E l w i n g)

【あらすじ】

三題噺です。お題は「トンボ、夕焼け、お迎え」です。ちよつと前に投稿した「夕日、トンボ、お迎え」と基本的には同じです。同じく200文字小説としました。

(前書き)

このお題は『文学少女』から取ってきました。前回、あまりにさ
らりとしていた。という感想があったので、ちょっといじくってみ
ました。結局、ラストは同じ様な感じなので、相変わらず捻りが足
りないかなあ、とも思いましたけど…。

起承転結、を少しは意識したつもりですが、転が、イマイチかな
あ…。

あいつとは幼馴染、よく二人で一緒にトンボを追いかけた。
お互いの全てを分かっていた。

けど不思議と、お互いを異性とは思ってなかった。
何故だろう？

でも、それで良かったのかも知れない。

だから長い間、自然に傍に居たのかもしれない。

けど、その関係がずっと続く訳じゃなかった。

私と子供が公園デビューしたのは先週だ。

夕焼けが周囲を茜色に染め始めた。

「お父ちゃん、お迎えに行こっか」

あいつそっくりの子がニッコリ笑った。

(後書き)

前回の「夕日、トンボ、お迎え」と基本的に同じお話で、お題の使い方を少し変えてみました。同じ話を何度も書くな！とのお叱りがあるかもしれませんが…。少しだけ印象は違うと思います。
よろしくお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8428k/>

自然体な不思議

2010年10月10日02時19分発行